

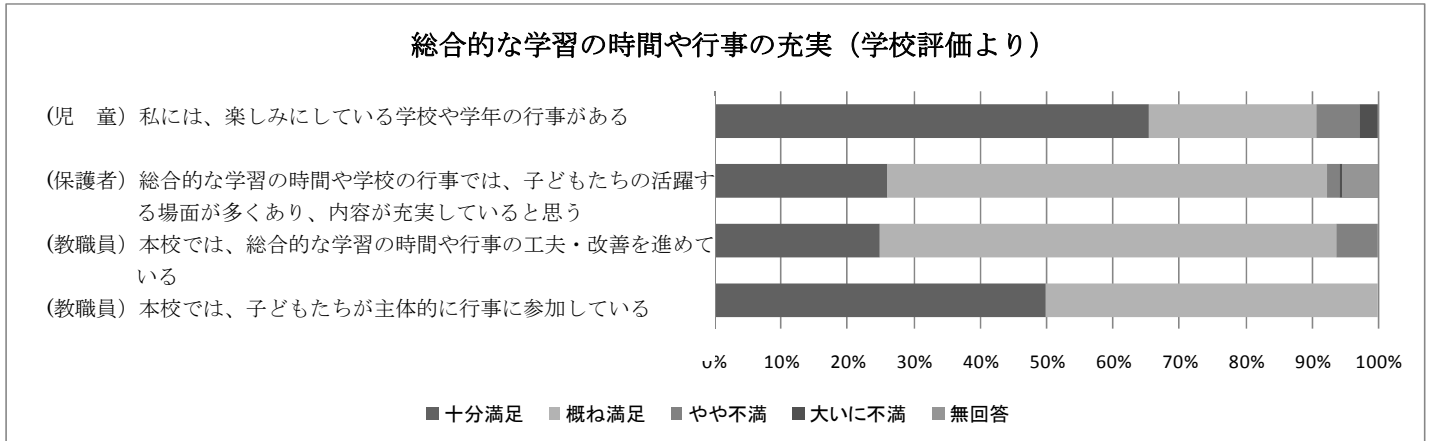
### 三. 環境教育の推進について

#### 1. 学校の課題と環境教育の推進の関係

##### (1) 諸調査よりみた本校の課題

###### ① 学校評価より

昨年度の学校評価より体験活動に関係する項目を下に示す。児童・保護者・教職員ともに、総合的な学習の時間や行事の充実については高い評価をしている。行事や活動の見直しが言われているが、本校での体験的な活動は、保護者や地域からも継続を希望されていることから、特色ある活動として今後とも大切に扱っていききたい。



###### ② 職員による本校児童のとらえ

学校評価をもとに、職員会議やグループ会議において本校児童の特徴を次のようにまとめた。

良 い 点	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直で先生の指示にしたがう児童 学校のきまりを守り、良い生活態度である 係活動等に責任を持って取り組む</li> <li>・無言清掃ができる ほぼ無言で一生懸命床を磨く姿</li> <li>・良好な人間関係 困っている子に手をさしのべることができる 休み時間に誘い合って遊ぶ姿 気持ちの良い挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な学習を 発言する児童が決まっている 発言の音が小さい 指示されてから動き始める姿</li> <li>・物や人にていねいに接したい 教室でふざけ、戸を乱暴に開け閉めしたりする姿 中庭の植え込みの間で遊び、地面や木を荒らす 友だち同士で支え合えない時もあり</li> </ul>

###### ③ 学習の状況から見た本校児童の様子

NRT テストによると本校児童の習得の状況は、5段階中4段階の児童の割合が多く、概ね学習内容を理解している。中領域を分析すると、6年「動物の誕生と成長の様子」の領域が知識として整理されておらず、十分に身につけていないことがわかった。そこで、5年の「動物の活動や植物の生長と季節」において自然観察の時間を十分に取り、季節と動物の生態を意識させて継続した学習を行ったところ成果がみられた。本校は恵まれた自然環境を活かして、自然に触れ、観察することが可能である。その利点を学力の向上に結びつけるためには、体験で終わらせることなく、観察した結果を図や言葉に表し、互いに伝えあう活動が必要ではないかと考えた。環境についての体験的な学習を学力の向上に活かす方策については、校内でグループを作り理科を窓口にして研究を進めている。

(2) 本校における環境教育の位置づけ

以上の点を考慮し、本校の環境教育の構造を下の図のように考えた。

